

「観経疏」散善義①
 「順彼仏願故」
 一には一心にもつぱら弥陀の名号を念じて、行住座臥に時節の久近を問はず念々に捨てざるは、これを正定業と名づく、かの仏の願に順ずるがゆゑなり。
 (七註463頁)

「順ずる」…したがう

称名念仏を勧める理由
 〓本願にあるから

「観経疏」散善義②
 「望仏本願」
 上来定散両門の益を説くといへども、仏の本願に望むるに、意、衆生をして一向にもつぱら弥陀仏の名を称せしむるにあり
 (七註500頁)

阿弥陀仏の本願の真意
 〓みなに名号を称えさせることにある

『観経』に説かれる **定散** の人

定善 心を集中させて、阿弥陀仏や浄土を観る

散善 心が散り乱れた状態で悪を止めて善を修する

↓

自力で善を積み重ねる人

金剛石=ダイヤモンド

9897 行者正受金剛心
 慶喜一念相應後

固い
 壊れない
 信心 → 最高

金剛 のような何者にも動じない信心
 「受けしめ」…如来からいただく

きょうき **慶喜**

得べきものを得てよろこぶ (信心)

浄土に往生して仏となるべき身に定まる (正定聚・不退転の位)

→ 疑いの心がはれたその瞬間に

「浄土和讃」(註561頁)
 一念慶喜するひとは往生かならずさだまりぬ

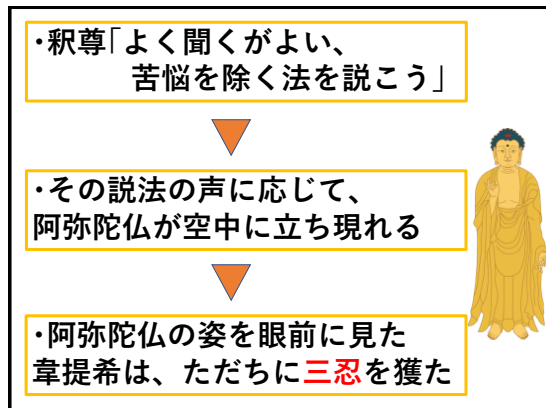
「高僧和讃」(註585頁)
 一念慶喜するひとをかならず滅度にいたらしむ

99 与**韋提**等獲三忍

マガダ国 阿闍世の母 頻婆娑羅王の王妃・**韋提希**
 『観経』の主人公のひとり

韋提と等しく三忍を獲て法性の常樂を証せしむ

※『観経』の教えは、
 韋提希の要請をきっかけに説かれる



韋提希は「苦悩を除く法」として現れた
阿弥陀仏の姿を見て、**三忍**を得る

「**忍**」…うなずく、確認する

三忍 = 3つの徳義を確認する

①喜忍…よろこび、安心するおmoi
②悟忍…仏の智慧をはっきりと知る
③信忍…仏の本願を疑いなく信じる

韋提希が、阿弥陀仏の姿を見て三忍
を得たという事と、私たちが名号
(南無阿弥陀仏)のいわれを聞いて
信心を得るという事とは全く同じ事

▽

本願のいわれを聞き、信を得た
者は「与韋提等獲三忍(韋提と
等しく三忍を獲)」と言われる



善導大師の教えのポイント

☆古今楷定によって、浄土教の正しい見方を明らかにされた。

☆善人も悪人も、阿弥陀仏のはたらきによって、ひとしく救われる。

☆本願を信じて念仏する者は、この世の命を終えると、浄土に往生して速やかにさとりを開く。

善導大師の言葉

『往生礼讃』～自信教人信～

みづから信じ人を教へて信ぜしむること、難きがなかにうたたさらに難し。
大悲をもって伝へてあまねく化するは、まことに仏恩を報ずるになる。(註釈版七祖篇676頁)